

”ガスなのに” 「港にいます」

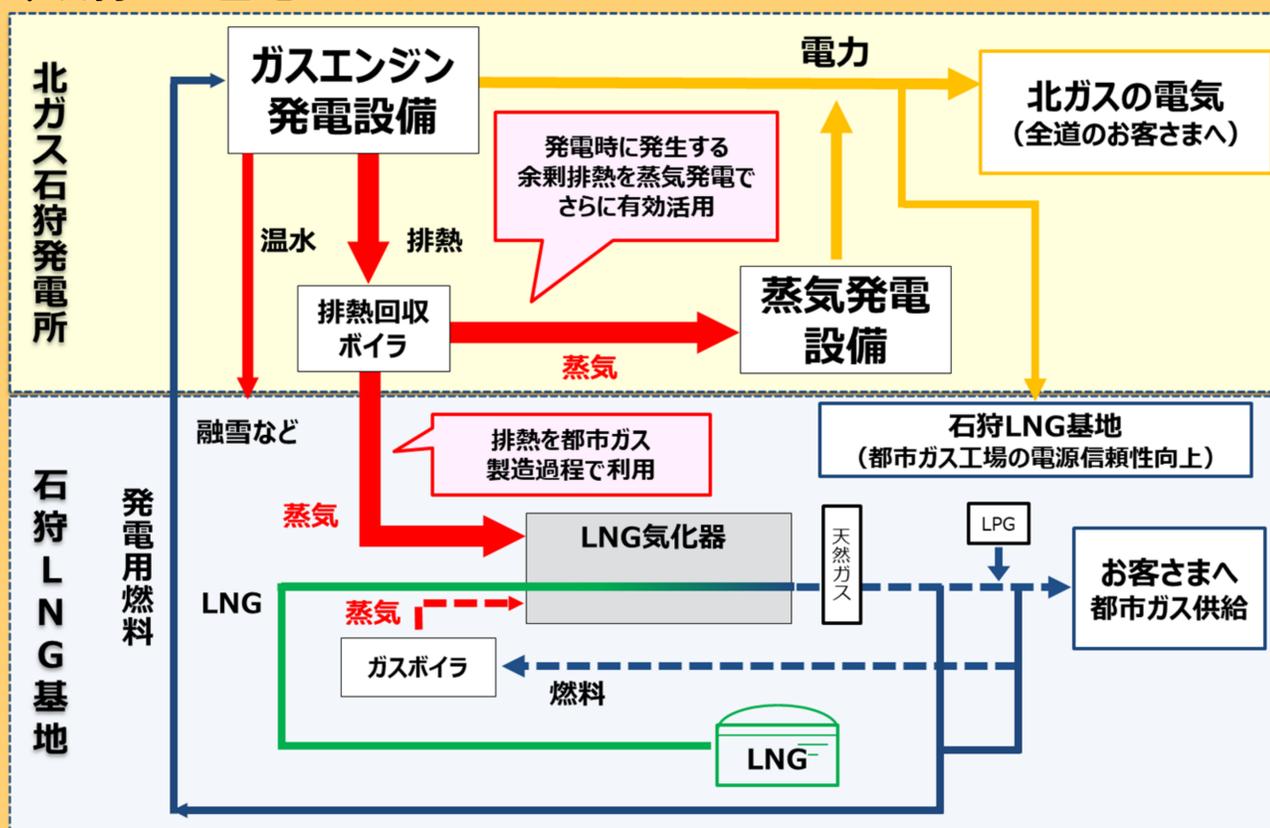
海外からのLNGの受け入れを北海道で担う、石狩LNG基地。2012年にNo.1タンク、その後No.2タンクを建設し、2018年には北海道初のLNG火力発電所「北ガス石狩発電所」を稼働しました。石狩LNG基地は、一大エネルギー拠点として北海道の暮らしを支えています。

LNG基地構内で熱も有効活用 北ガス石狩発電所

現在、「北ガスの電気」の電力供給の約6割を担うのが石狩湾新港に建設した「北ガス石狩発電所」。北海道胆振東部地震の際には全道の電力供給力不足に協力するため、計画を前倒して発電を行い、2018年10月より本格的に運転を開始しました。

本発電所は、「天然ガスコージェネレーションシステム」を採用し、発電だけでなく、排熱を放熱せずに石狩LNG基地の都市ガスの製造過程に有効活用しているため、総合エネルギー効率は、最大で約80%にもものぼります。さらに、熱のより一層の活用を図るため、ガス需要のオフピーク(夏や夜間等)の余剰排熱を活用した蒸気発電を計画しており、未利用エネルギーの活用についての知見をさらに深めていきます

◆石狩LNG基地のシステムイメージ



都心部の大型発電所「北ガス札幌発電所」

2019年には本発電所と同型のガスエンジンを本社ビル（札幌市東区北7条東2丁目）に導入し、「北ガス札幌発電所」の運転を開始しました。発電した電力は本社ビルのほか「北ガスの電気」として全道へ供給、排熱は周辺地域への熱供給へ有効活用し、都心部のエネルギー拠点としての役割を果たしています。こうした大型発電所の都心部への導入は珍しく、中でも外部へ送電することを主目的とした都心部での例は全国初です。

